

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520383

研究課題名（和文） 削除文に課せられる統語条件と意味条件の研究

研究課題名（英文） A Study on Syntactic and Semantic Conditions on Ellipsis

研究代表者

島 越郎 (Etsuro SHIMA)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：50302063

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：削除文、統語条件、意味条件、生成文法

### 1. 研究計画の概要

本研究課題では、削除された文の意味内容を復元する際に必要となる統語情報と意味情報を明らかにし、削除文における意味解釈のメカニズムに関する体系的理論の構築を目指す。

### 2. 研究の進捗状況

(1)平成 18 年度は、「動詞句削除には削除部分に発音されない空の代用表現が生起する可能性があるが、空所化にはその可能性はなく、必ず統語構造が存在する」という仮説に基づいて、以下の言語事実を説明することを試みた。

- ①動詞句削除の先行詞は、談話上において二つ以上先行する文中に存在することができるが、空所化の先行詞はできない。
- ②動詞句削除の先行詞は談話の状況でも構わないが、空所化の先行詞は文中に存在する言語表現に限られる。

(2)平成 19 年度は、i)動詞句削除と擬似空所化は TP から構成されるのに対し、空所化と単一要素残置は vP から構成される、ii)動詞句削除では動詞句最大投射が削除されるのに対し、擬似空所化と空所化と単一要素残置では指定部 vP に位置する残留要素を除く動詞句投射が削除される、という二つの仮説に基づいて、以下の言語事実を説明することを試みた。

- ①動詞句削除と擬似空所化は、従位接続詞で導かれる節においても生起できるが、空所化と単一要素残置は生起できない。
- ②動詞句削除は分離先行詞を取れるが、擬似空所化と空所化と単一要素残置は取れない。

(3)平成 20 年度は、i)削除文を派生するコピー操作と削除操作を誘発する素性がフェーズである CP と vP 主要部に随意的に基底生成され、ii)コピー素性を持つ主要部の補部と指定部には空所と音形を持つ要素がそれぞれ選択されるのに対し、削除素性を持つ主要部の最大投射は PF で削除される、という二つの仮説に基づいて、以下の言語事実を説明することを試みた。

- ①間接疑問縮では助動詞が残らないが、動詞句削除では、助動詞が必ず残る
- ②間接疑問縮約では、疑問詞に対応する語句が先行文において具現化しない場合があるが、動詞句削除では、動詞の目的語が疑問詞として残留要素となる場合、目的語に対応する語句は必ず先行文に具現化する。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

今までのところ、動詞句削除、擬似空所化、空所化、単一要素残置、間接疑問縮約が示す共通点と相違点を考察することにより、それぞれの削除文が示す固有の特徴を明らかにしてきた。これは、当初の予定通りである。

### 4. 今後の研究の推進方策

過去三年間において得られた動詞句削除、間接疑問縮約、空所化、擬似空所化、単一要素残置が示す諸特徴に対する説明をより一般的なものに修正することにより、削除文における意味解釈のメカニズムに関する体系的理論を構築する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 島 越郎、「省略文の派生：コピーと削除」、査読無、『東北大学文学研究科研究年報』第58号、2009、93-112.

② 島 越郎、「動詞投射範疇の削除」、査読無、『言語研究の現在』、2008、377-386.

③ Etsuro Shima, “Two Types of Elliptical Constructions”, 査読有, *English Linguistics* 25-1, 2008, 292-314.

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]